

平成28年度 第1回小田原市社会教育委員会会議概要

- 1 日 時：平成28年7月11日（月）10：00～12：25
- 2 会 場：小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 委 員：木村議長、中村副議長、有賀委員、角田委員、笹井委員、土田委員、浜田委員、深野委員、益田委員
- 4 職 員：関野文化部長、安藤文化部副部長、杉崎文化部副部長、大木生涯学習課長、内田文化財課副課長、古矢図書館長、尾沢スポーツ課長、山崎子ども青少年部長、北村子ども青少年部副部長、石井青少年課長
（事務局）
濱野生涯学習担当副課長、高橋生涯学習係長、松本主査、渡邊主査
- 5 傍聴者：なし

5 概 要

1 委嘱状交付

関野文化部長から浜田委員に委嘱状を交付した。

2 文化部長挨拶

関野文化部長が挨拶をした。

3 委員紹介及び職員紹介

名簿順に委員に自己紹介していただき、次に職員が資料1に沿って機構順に自己紹介した。

4 報告事項

(1) 附属機関への委員の推薦について

生涯学習課長から資料2に沿って説明した。

(2) 社会教育事業の結果及び予定について（平成28年2月～8月）

資料3に沿って、順次各所管の社会教育事業の結果と予定について報告した。

(3) 平成27年度社会教育事業の結果について

生涯学習課長から資料4、5に沿って、平成27年度の社会教育事業が、前期答申をどれくらい反映して実施されたかについて報告した。深野委員から資料5について一覧表として見たときにもう少し分かりやすいものにしてほしいとの意見があった。また、中村副議長から前回の答申を踏まえて事業がどういうふうに行われているかと

いうことを検証していくことは、なかなか他の地域では行われず、答申が出しっぱなしになりがちだが、小田原はそういう点ですごくよいとの意見があった。

【木村議長】 中村副議長と話した中で、前から私も言っていたが、最終的には今、各村とか合併したものが、一番分かりやすいのは豊川だが、ああいう建物をもう建て替えることはできない。資金的なものもある。そういうことを考えると、前から言っていた様に学校を利用するのが一番地域とすればよいだろうということで、教育長にも話をしている。学校はなかなかガードが固い。セキュリティがあったり、いろいろな問題をすぐいってくるが、そういうものを中に入れて、あくまでもこれから先はそういうものを利用していくということを明確に答申の中に入れていかないと、これが来年とか再来年にすぐ変わるという問題ではないと思うが、やはり子どもが減って部屋が空いてくるということになれば、地域はどうしても利用したいというのが、これからどこの地域も出てくると思うので、特に国府津あたりも、国府津学習館もなかなか古くなってきて問題もできているが、そういうことを考えると、やはり既存で使えるところは学校だろうということを中村副議長と話した。そういうものを、答申の中に、社会教育委員の中からこういう話があって、これをこれから進めていってもらいたいという形を答申案の中には入れた方がいいのではないかと思う。これから中村副議長がその辺のところを話してくれると思うが、そういうことを考えながら、これから1時間半の間に皆さんで答申案の内容を詰めていきたいと思っている。

5 協議事項

(1) 答申について

生涯学習課長から資料6に沿って説明した。

【木村議長】 それでは、「はじめに」から入っていきたいと思う。これについて何かあったら、発言をお願いしたい。

【中村副議長】 元の文だと学びの定義がすぐに出てきたが、小田原らしさを踏まえて学びを定義した方がよいと思うので、2段目から最後の方に定義をずらした。「貢献してきた」といっていたが、不可欠とまではいわないも、「まちづくりにつながってきた」と書いてもよいと思う。後、最後のところに「前回の答申を踏まえ」と書いてあるが、前回の答申らしいものは何も書いていないので、どうしたらいいのか、ちょっと疑問である。

【木村議長】 生涯学習課長、今の意見はどうか。

【生涯学習課長】 前回の答申を踏まえというのは、具体的には第2章の「今後の地域に必要なとなる学びの場」というところが、特に前回の答申を踏まえた内容になる。

前回提示した案では、先ほども資料4で見たが、5つの視点の中でここを挙げた内容になるが、内容が分かりづらいということで、この4点に整理した。ただ、そこは前回の答申を踏まえた内容になっているので、本文の中で書くとすれば、第2章の(1)が始まる前あたりに何か入れるぐらいかなと思う。

【中村副議長】 提案だが、例えば、資料4に書かれているような項目だけを並べて、こういうことを踏まえて、去年はこういう事業をやってきたけれども、これをやるためには、場のあり方を検討しなければいけないとかというような書き方だったら、3、4行で済むので、ただ「踏まえ」よりはちょっと変えた方がよいのかなという気がした。

【生涯学習課課長】 それは、「はじめに」の中に入れるのか。

【中村副議長】 そうである。中に入れると訳が分からなくなるので、「はじめに」の中に入れる方がよい。本当は、先ほど報告事項の(3)で深野委員が言われていたような視点があるとここに入れやすかったと思う。来年度、事業の結果報告をするときには、今年度の答申を踏まえた視点に基づいて、その次を考えるという流れにしてもらえればよいのかなと思う。

【木村議長】 他に何かあるか。それでは、「はじめに」はこれでよろしいか。また、全体を通して直したら、答申を送付していただきたい。次に、「地域における学びの場を取り巻く現状」だが、4項目あるが、その中から皆さんに意見を伺いたい。

【中村副議長】 「として」とあるのは、私が、ここは文章がねじれていると直した部分だが、結局またねじれている。「生涯学習センターとしては、分館5館と国府津学習館があり、」までは、ねじれていないが、その後の文章、「地域の団体や自治会の打合せ等、多目的な利用での需要が多い」という部分は、「～としては需要が多い」となり、ちょっと変な感じがするので、その辺、推敲してほしいといったが、なぜか全部が「として」となってしまったのは残念である。今、思ったのは、「生涯学習センターは、分館5館と国府津学習館であり」とかとすれば、もしかしたらうまくいくかもしれないので、ちょっと文章を推敲してもらえれば、全体的によいかなと思う。全部「として」にしないことである。

【木村議長】 今、中村副議長が言われたのは、「生涯学習センターは、分館5館と国府津学習館であり、地域の団体や自治会の打合せ等、多目的な利用での需要が多い。」に直すということか。

【中村副議長】 ここは、それでよい。他もそういうふうに推敲してほしい。

【木村議長】 他にいかがか。

【深野委員】 (2)で、生涯学習センター等、施設が老朽化や耐震化等の問題を抱える

が、財政状況等から即時の解決は難しい状況にあると、これは現状そのとおりだと思ふし、私の自治会の集会所も地震があったら最初に壊れてしまうのではないかというところだが、この問題に対して、これは社会教育の課題ではないからということで、後ろで全然話に触れてこないのは当然だと思ふが、ただ、一方で地区公民館は、今後も使い続けたいといけなないので、それはすごく大事であることが、大前提になっている。やはり、社会教育の、生涯学習の立場からすれば、公共施設の維持と、少なくとも耐震性の強化ぐらいは、ぜひ強力に進めてほしいという要望がいえないのかなと、横断的な活動が必要であると書いてあるので、やはり、第一歩は、まず地区公民館で、学習しているときに地震が起きたら、皆まとめて潰れてしまったでは困るわけで、安心して使えない。その辺で、現状を解決が難しい状況にあるというのは、分かるが、だから何も語らなくてよいのかというの、素朴な疑問としてある。

【中村副議長】 そのとおりだと思ふ。そのためにもどういう仕掛けをするかというのが、3の(1)に書いてある。3の(1)の言い方が弱い。私は、少なくとも効率的という点でだめになるから、せめて効果的、効果を出すようにしなければということで、言葉を変えた。もっとよい方法があれば言ってほしい。

【木村議長】 まずは、2ページ目の第1番のところはどうか。そこで、先ほど文言の修正があったが、その他には、いかがか。

【土田委員】 地区公民館の現状の中で、いろいろな活動をやっているのはよく分かるが、豊川にもいくつか公民館があるが、横のつながりがない。それは誰がコントロールして、誰が把握しているのかが全然我々には分からない。例えば、ここに書いてある書や写真のクラブがいくつかあるのか、それぞれどういう活動をしているのかが、地域の住民が分からない。自分がそこへ入りたいたいと思っても、どこに入ったらよいのかも分からないというようなことで、どこかでコントロールする機能が必要なのかなと、いつも思っている。立場上、聞かれることもあるが、何の報告も受けていないので、分からないし、答えようがない。自治会長さんも同じだと思ふ。その辺のところ、利用する届を出せばよい、それで公共的な、例えば、防災訓練か何か急にあったら開けてくれよというような条件を付けて貸しているだけではうまくないのではないかと考えているが、どうか。意見だけでも構わない。

【生涯学習課課長】 今言われたところは、特に、3の(3)の学びのコーディネート機能の強化ということで、各公民館単位では、そういった情報というのは出てくるのかもしれないが、今言われたように公民館同士の連携というのは、公民館連絡協議会というものがあるが、そこは情報の伝達が主なもので、なかなかこうした横の連携というものは難しい状況ではある。これが、今、連

合会単位の中で、地域コミュニティ組織というものが立ち上がっているの
で、こうした中でどう考えていくのかが課題となっている。実際にそうした
課題があることは認識している。

- 【木村議長】 それでは、1の「地域における学びの場を取り巻く現状」は、先ほど、中
村副議長が言われた文言の修正で終わりにする。今度は、3ページ目の
2の「今後の地域に必要となる学びの場」について、意見はあるか。
- 【益田委員】 先ほどから、公民館とか話が出ているが、今後の地域に必要となる学びの
場は、すごくよく分かりやすくまとまっているが、どれも抽象的という気
がする。もうちょっと、ここでも、そのための場がないみたいなところを
ちょこちょこ入れていくと、実感が沸くような気がする。少し抽象的すぎ
るような気がする。
- 【中村副議長】 今回の益田委員の言葉で、先ほど生涯学習課長が2の(1)のときに、縁側
的な施設という言葉を使っていたが、そういう言葉を使った方がよいのか
なという気がする。
- 【深野委員】 私も賛成である。自分でもメモしたが、何で縁側的と言わないのかと思っ
ていたが、よい言葉だと思う。イメージできる言葉、場がイメージできる
ことはすごく大事だと思う。そういう意味では、今言ったような言葉をち
りばめていくと、抽象的な部分がもう少し具体的なイメージが浮かぶよう
な表現になるのではないかと思う。後、2は考え方を書いてあるので、抽
象的になってしまうのはしょうがないと思う。例えば、2のタイトルを「必
要となる学びの場の形成への考え方」とか、タイトルがもっとこういうこ
とを伝えたいというのが分かるようなタイトルにしていけば、多少、抽象
的でもしょうがないと思ってもらえるのかなと思う。
- 【益田委員】 私も同じように思う。学びの場と書いてあるので、どうしても場を想像し
てしまうが、書いてあるのが、概念を書いてあるので、ちょっとそこが合
わないような気がする。
- 【木村議長】 今回の意見、生涯学習課長はどうか。
- 【生涯学習課長】 2のタイトルについては、事務局としても、座りが悪いかなとは考えてい
て、今言われたとおり、考え方という形に直すのであれば、言われたとお
りだと思う。後、縁側的な施設については、(1)のタイトルに入れるよ
うな形か、本文に入れる形か。
- 【木村議長】 2の「今後の地域に必要となる学びの場」のタイトルを変えること、また、
今言った文言をどこに入れるか。
- 【深野委員】 生涯学習課長が文案の説明で言葉でかいつまんで説明しているが、それが
そのまま書いてある方がよほど分かりやすいと思う。
- 【笹井委員】 従前から何度も言っているが、地区公民館がたくさんあって、それなりに

老朽化しているが残っているのは、素晴らしいことだと思っている。縁側という話が出て、私もそういう言葉を使うことは賛成だが、縁側機能とは何かというと、地域に参加する、地域の居場所、社会参加する、そこにぶらっと行ってみると仲間がいて落ち着くみたいなどころがあることだと思う。例えば、人と人が社会参加してつながる、地域に参加してつながる身近な場というようなタイトルになると、すごくそれが明確になってくると思う。これから、若い人も子育て中のお母さんもそうだし、あるいは自分の妻や旦那が亡くなり、一人暮らしの高齢者になってくると、やはり、孤独とか孤立とかが起こってくる。そこで、そういう地区公民館に行って仲間と会って面白いことをすれば、かなりそれも本人なり社会のプラスになると思う。地区公民館がそういう役割を果たしてほしいと思う。参加とか縁側とかという言葉を使えば、かなり意図が明確になると思う。

- 【中村副議長】 本当にそのとおりだと思う。2が考え方を示すとすると、まちづくりとか居場所になっていくことが読んだ人に分かるようにしていくことが大事だと思う。ないから場所がほしいではなく、場所を作るとこんなによいことがあるという展開になるような書き方になるとよい気がする。縁側とか身近な施設があるとまちづくりになっていくからこそ必要である。今だと、場所がないから、こういう場所が必要です、と感じる。
- 【木村議長】 他にいかがか。
- 【有賀委員】 一番最初に送られてきた骨子案では、2の「今後の地域に必要な学びの場」の(4)が「まちづくりを推進する場」となっていたが、そこだけ「人や活動をつなげる場」に変更になっていたが、変えた理由は何か。
- 【生涯学習課課長】 その内容では抽象的すぎるということで、事務局の中でもう一度再考して、まちづくりを進める中で、特に地域コミュニティ組織によるまちづくりということで、少し具体的な感じにした。
- 【木村議長】 他にいかがか。文言の追加とか変えるとかなら修正できるか。
- 【生涯学習課課長】 この後、7月21日に教育委員会定例会が開催され、そこで答申を提出する予定になっている。その間に、今日ここで話し合われた内容を反映して答申を作成していく形になるが、後ほど、議長の方から話があると思うが、本日、議論していただく内容の修正については、申し訳ないが、議長と事務局との調整とさせていただき、教育委員会定例会の前に最終の答申文を送付する形で考えている。
- 【笹井委員】 全体にすごくよくまとまっているなと思って読ませていただいた。ありがとうございます。一つだけ追加してほしいのは、住民の人たちが地域を作る根本的な原動力は自分が住んでいる地域が好きだということだと思う。小田原なら北條氏の歴史とか小田原城とか素晴らしい遺産がたくさんあ

るが、そういうものが好きだ、あるいは地域の人間関係が好きだ、地域で活動をしているいろいろな思い入れがあってそれが好きだ、地域への愛着というものを育てていく、あるいはそういうことを感じてもらう場を作っていくのが、とても大事だと思う。どこか、地域への愛着という言葉が入らないかなと考えていた。それが、教育や生涯学習のいろいろな政策の最終ゴールのように思えてしょうがない。できればどこかにそういう言葉が入るとよいと思う。

【中村副議長】 一つ提案だが、今のはすごく大事なので、「はじめに」にところに前回の5項目があるが、これが地域への愛着につながっていくので、書けるとよいと思う。最後にもその言葉を使った方がよいと思う。

【深野委員】 思いつきの提案で申し訳ないが、今の話で、私もついこの間「ういろう」に見る小田原」という本で小田原の歴史のことを書いたが、そういう笹井委員が言われたことを、2で突然項目に入るのではなく、2のところの前書きみたいところで、郷土とか地域を大切にしていきたいというようなことを目指していくんだ、それを実現するためにこういう場を用意したい、そして次に挙げる4項目の場づくりに取り組んでいきたいということが書いてあると、何でこういう場があるのかというのが、伝わるのかなと思う。

【木村議長】 2は今後ということで、「今後の地域に必要となる学びの場」という形で書いてあり、文言は修正するが、そこだけでも前文を入れて、今の話で、もっと地域の人と人とのつながり、密着であるとか、愛着であるとか、そういうために、こういう学びの場を作るということを、この2の今後のタイトルの下にちょっと入れて、(1)から始めたらどうか。そうすれば、まちづくりにもつながるし、地域コミュニティにもなるだろう。前文みたいなものを入れればつながっていく。

【生涯学習課課長】 今のところを整理すると、2のタイトルについて、考え方という内容なので、そうしたタイトルに変える。もう一点は、(1)のところに「縁側的な施設」という文言を入れる。併せて「社会参加」「居場所」という文言も入れる。それから、副議長から言われた、(1)から(4)の書き方だが、今、こういう場が必要だということになっているが、逆にして、こういう場があることで、こういうことが展開されるというような形に各文章の構成を少し変えるということが三点目、それから、地域への愛着という話があったので、こちらについては、まず「はじめに」と「終わりに」にそういった内容を入れていく、また、2の前文としてそこも入れていくということによろしいか。

【木村議長】 はい、よろしい。それでは、今度は、4ページ目の3「地域における学び

を推進するための仕掛け」について、ご意見のある方は、どうぞ。

【中村副議長】 修正されているのは、全部、私が言ったことだが、まず、(1)のところでは、効率的というのだいたい削減されていってしまうので、効果を出すような書き方にした。それから、公民館には、3つやっちはいけないことがあり、政治的な活動と経済的な活動、宗教的な活動であるが、資金集めとなる活動の成果を得られるようにと書いてある。この会議でも資金集め的なことをしたいということが出ていた。「消せ」と言った訳ではなくて、言い方をというか、どういうふうにしたらよいか方向性を決めた方がよい。ただ、こういうふうに書いてしまうと法律違反になってしまうということを言ったので、皆さんの意見次第なのかなと思う。(2)のところでは、「やむを得ない」と言ってしまうと認めたことになるので、「考えられる」ことぐらいにした方がよいと思った。(4)に関しては、学校との連携というのは、確かに大事だと思うが、なかなか学校を開くのは難しいので、例えば、中教審答申などでも、「地域の学校」などといわれていることを入れた方がよいと言ったことが、「おわりに」に入ってしまったが、もしかしたら、これだと学校のことだけになってしまう。この答申でいいたいことは、この4つなので、4つがちゃんと「おわりに」に入る形にした方がよいのかなと思うので、「おわりに」の「折りしも～」というところは、4の中に入れた方がよいのかなという気がした。答申として言いたいことは、この4つなのかなという気がして、特に(1)の地区公民館が小田原の特徴だと思うので、ここを何とかしないといけないかなと思う。それは、市民の方々でよく分かっている方の意見を入れる必要がある。

【木村議長】 公民館の支援の中で、修繕も今まで100万円以上だったものが、50万円まで下がった。50万円から修繕の補助が出るようになってきたので、今までは100万となると、2つ3つ抱き合わせにしないとなかなか100万にならない。今回、50万という設定になったので、今度は公民館の修繕も、ちょっとした修繕だったらできるというように変わってきたので、その辺はよいのかなと思っている。住民としてみれば、一番今までと違って、勝手がよいというか、なんでもすぐできるという感じにはなってきた。後は、どうしても建て替えとなると、年1館がいいとこだと思う。そういうことを考えると、先ほど、深野委員が言われたように、今、自分のところの公民館も(地震で)すぐ潰れるから、気を付けろよと言っている。避難場所には到底ならない場所である。それでも、もう築60年以上経っているので、窓枠を変えてみたり、小さいのをちょこちょこ修理しているが、それでも何とか、使える。地区公民館というのは、先ほど、笹井委員が言われたように地域の人が集まってやっている。地域コミュニティ

組織の方は、自治会が中心になって、26地区皆でやっている。コミュニティは、やはり、昔から公民館を中心に、地域の人が集まって、盆踊りをやってみたりというのは、地域の中で、本当の輪の中でやっているの、公民館が無くなるということは、ちょっと考えられない。何かあれば、地域の人が一番頭に入っているのが、公民館である。大きくすると、行政と一緒にやっている地域コミュニティ組織の方は、これは全然違う。だから、組織を作ってやっているのは、今までいろいろな団体があったものを一つにまとめてやっているから、それと公民館主体のコミュニティとはやはり違う。あくまでも、コミュニティというのは、昔からある地域であったり、その人たちが集まってやっているのが、コミュニティである。今、我々がやっているのは、今まではある団体が一つにまとまって一つのことをやっているというだけであって、どうしても、地区公民館というのは、残していかなければいけない。確かに、地域センターであったり、そういうものを行政が作るのはいいが、それは集まった組織の人がやるだけであって、地域の我々ができるものは、公民館という感じである。そのようなことからすると、公民館の支援というのは、今、50万に下がってきたので、これからは、地域はいくらでも、小さい修繕くらいはできていくと思う。これが非常によいのかなと思う。他にいかがか。

【中村副議長】 今言われたことをここに書ければという気がした。「人と人がつながる身近な場として、今後も地域住民が気軽に集まり、学び合える場である地区公民館を存続させることが必要である」とさらっと書いてあるが、今、議長は、地区公民館が前提であると言われていた。そういう書き方にした方がよいのかなと思う。それで、まちづくりが行われてきたのが小田原の特徴であるから必要である、そうすれば、もう少し強く伝わるのかなと思う。例えば、50万ということだが、50万で直せるところはちょっとで、それで潰れてしまっただけなら、そうしたら、たぶん地区公民館は無くなってしまう。その辺は、どう考えているか。

【木村議長】 その辺は、最終的には、みんな自治会で積み立てをしたりしてやっている。自分達の公民館だから、自分達で年間いくらかでも積み立てながらやっている。それと後は、小田原市のコミュニティ助成（建て替え）をもらうと1500万くらいになる。そのお金と、自分達が積み立てたお金で、皆さんやり繰りしながら、古いものは新しく変えていく。130館あるので、1年1館で130年かかる。とてももたない。

【浜田委員】 議長の話もあったが、地区公民館は地域住民の活動の拠点でもあり、学びの場の拠点にもなるだろうと思う。やはり、さらりとした形で答申を出されても、さーといってしまう感じがするので、それだけ必要なものなんだ

というような論調があるとよいなという感じがした。3のタイトルのところで、「仕掛け」という表現を使っているが、意図的に使っているのか。普通だと、行政が使う時、取組とかという言い方をするが、「仕掛け」という言葉を敢えて使っているのか。

- 【生涯学習課課長】 「仕掛け」という言葉は、この会議の中でよく出てきた言葉であるので、使わせていただいた。他の答申もいくつか見たが、「仕掛け」という言葉を使っているところも中にはあるので、この中で使っても差し支えないかなと思った。ここで、もし他に言葉があれば修正する。
- 【中村副議長】 もう少し強くするなら、違う言葉がよいかもしれない。
- 【浜田委員】 ちょっとせこい気がした。
- 【笹井委員】 私自身は、結構「仕掛け」という言葉が好きで、「仕組み」と「仕掛け」と考えている。「仕組み」というのは、ある程度恒常的な組織とか、恒常的な制度を作っていくというのがあって、「仕掛け」というのは、単発の事業的なものとか、単発なんだけれどもそれが起爆剤となって続いていくという意味で「仕掛け」といっている。「取組」というと、すごく広い意味の取組になるので、広い意味でいうときはよいと思うが、ちょっと「仕組み」ではなくて、もうちょっとそれを起爆剤として使いたいときは、「仕掛け」の方がよいのではないかと個人的には思う。
- 【深野委員】 修繕の話に戻ってしまうが、(1)の3行目の終わりのところの「より効果的な支援のあり方を検討する必要がある」という表現が、私が会社にいたときに、文章を作ったとき、こういう書き方をすると、上司に非常に怒られた。「あり方」とは何か、「検討」とは何をする気なのか、「必要」とは必要があるならやればよいと、こういうことをよく言われた。そういう目で見ると、どうしたいのかが分からない。「効果的な支援のあり方を検討する必要がある」とは、要するに何をしたいのかというのが、全く伝わらない。意思はどこにあるのか。やはり、修繕や活動に対する補助金、公民館長の育成支援等を、例えば、早く強力で推進することを切に願うとか、推進することが自分達でできればよいが、そこはお願いする話になってしまうので、そこは強力でお願いしたいのが意思だと思う。答申というのは、こうしてほしいとか、こうしたいというのが答申だと思う。やはり、意思が出てこないといけないと思う。「あり方を検討する必要がある」というのは、ちょっとまずいのかなと思う。
- 【木村議長】 後は、(4)の学校との関係というのは、強力に進めていかないと、結局、場が無くなってしまう。集まる場が無くなってしまう。この辺は強力に、何年後にやれということは別にしても、もうちょっと強い言葉でやらないと、多分無理ではないかと思う。結局、場が無くなってきて一番困

るのは、我々もそうだけれども、行政も困ると思う。もう新しいものを作るという時代でないし、そういうものは、とても望めない。望めないなら、何があるかという、やはり子どもが減ってきたときの空き教室を利用しながら地域に確保してもらいたい。今、開放しているといっても、それは、地域の夏祭りであったり、体育館を開放したりというのはあるが、なかなか教室まで開放して、地域の人が使っているのは、今まで一回もない。あるのは、グラウンドと体育館ぐらいである。だから、やはりその辺のところをある程度、強烈に言わないといけない。場が無くなったら、何もできない。先ほどの公民館の話もそうだし、それが各地区にあるかという、ほとんどない。連合会単位に学校があるので、あくまでもそれを最優先に考えていかないと、コミュニティは、余計壊れていく。そういうことのためにも、学校の空き教室をそういう形で使っていくと、強力に発信していかないと、多分、先ほど、中村副議長も言われた国の方もそうだけれども、そのようなことをやっているところがあるのか、それも分からないので、そういう形で小田原市はあくまでも進めていくという書き方に変えてもらって、先ほど、中村副議長が言われた下の方の文を上にもっていかるとか、これから、そういうふうにはやっていかなければいけないということが分かるような位置付けでいきたいと思うがいかがか。

- 【深野委員】 私もそう思って、(4)の4行目の頭の「有効である」と書いてあるが、柔道でも有効はたいした効果もなく、1本取らなければいけないので、ここは、連携することを強力に推進したいとか、そういう1本取るぐらいの気合で、議長の言いたいことは、そういうことだったと思うので、この言葉に気持ちが出ていないと伝わらないのかなと思う。
- 【木村議長】 今、言われたのは5ページの上から4行目のところか。「学校とが連携することが有効である」と書いてあるところをもう一段踏み込んで、強い言葉で言ってもらいたいということである。
- 【中村副議長】 それが学校にとってもメリットになるような書き方があるとよいと思う。元々学校を開いていくのは、学校のためというところがあった。他の地域の総合計画審議会委員等をやっていて、つくづく思うのが、そういうところに教育委員会から人が来るが、学校教育系の人が多く出てくる。そうすると、社会教育のことは、基本的には全く話されない。総合計画で話されないと、結局、社会教育は後に追いやられてしまうところがあるので、学校にとっての意味というのが見えるようにすると少しは話してくれるのかなという気がする。
- 【有賀委員】 学校現場で地域の方と交流する場は、ボランティア活動を通したりだとか、結構あるが、地域の方だけが、空き教室を開放してほしいという需要はあ

るのか。

【木村議長】

ある。

【有賀委員】

例えば、空き教室は子どもがいる時間帯ではなくて、夜とか土曜日の午後とか、そういうところで必要なのか。今は体育館と運動場だけだという話だったが、かなりそういう需要があるということか。例えば、どういうことをやるのか。

【木村議長】

地域コミュニティ組織も、豊川の分館でやるが、ところが、古くなってきて、あれを建て替えることはおそらくできないだろう。

【有賀委員】

公民館でやっているようなことを学校でやるのか。

【木村議長】

だから、地域コミュニティ組織が集まる場が無くなってくると、消滅してしまう。それだったら、各26地区に学校があるので、空き教室の1部屋をそういうために貸してもらいたい。そうすると、校長がセキュリティの問題もあり、夜も貸すのか、ということになってくる。そうなってくると、学校の都合があるので、牙城を崩すのは大変かもしれない。だけど、我々は無くなったら、このままでいいのかという訳にもいかない。それで、行政に作ってくれと言っても、お金がないからできないとなってくると、一番目に付きやすいのが学校の空き教室ということになってくる。

【有賀委員】

教頭先生あたりが窓口になっている。

【木村議長】

教育長も分かっているが、現状があるので、なかなか踏み込んでいけない。

【深野委員】

P T Aと一緒にお願いできないのか。

【益田委員】

P T Aとして入ると、学校側が大変な部分も見ているし、地域が大変なのも見ているので、夜間の開放だと教頭先生などが、必ず、終わるまで残っていなければいけない、土曜日の開放も同じなので、そうするとやはり、その仕組みから変えていかないと、ちょっと今のままだと難しい。例えば、ボランティアなんかも地域に広げて学校で募集したことがあるが、そうすると、違った目的の方がボランティアとして登録されてしまうことがあり、子どもがいるので、セキュリティの問題で、うちの学校では保護者が祖父母に限定するような形に1回なってしまったことがあった。そういうことを踏まえると、保護者の立場からすると、はい、どうぞとは簡単には言えない。

【木村議長】

そのようなことは、重々分かったうえで、やっていただきたいと思う。きついということはよく分かっている。分かっている言いたい。

【中村副議長】

そのようなことを3の前文に書けばよいのではないか。例えば、地域に地区公民館があることは前提だが、どうしてもないところは、場を確保していくことが大事だから公共施設の多目的利用とか学校とかを使えるような形になっていくようにする。基本は、地区公民館である。

【木村議長】 ということで、また、そこに前文が付いたが、よろしいか。学校も地域に開かれた学校にしようというが、我々が行くと閉鎖的になってしまう。セキュリティの問題などがあるから、そこに塀を作れとはいえないから、その辺が、これからいろいろ話し合いで生涯学習課や文化部にも入ってもらいながら、教育委員会と話ながらでもいいし、すぐにどうのこうのではないので、できれば、そういう方向性のある程度作っておかないといけないと思う。

【文化部長】 今の意見のところでは学校に強く求めていくことは、できると思う。学校の方も書き方によっては、歓迎だと思う。ただ、益田委員が言われたように、一遍に仕組みは変えられないので、少しずつ変えていく、その方向性として強く打ち出すのは可能だと思う。学校の方の状況は、委員に詳しい方がいると思うが、運営の方にも地域の方々が参加するという形でコミュニティスクール、学校運営協議会を立ち上げていくということを進めている。その中で、一番学校側としてもこういうふうに関わりをしていくのがいいという点、いわゆるソフト面、運営という面でも必要性を絶対に柱として持っている。また、学校の施設、ハードの建て替えだとか改築だとかということも、当然、地域の中の施設として地域拠点としての学校という考え方がないと、単に子どもが少なくなったということで建て替えや改築というのは難しい時代に入ったというのは確かであり、それは、十分承知しているので、このような答申の中で、そのような考え方、方向性を打ち出してもらおうというのは、ある意味歓迎的な部分があると思うので、その辺を考えていきたいと思う。

【中村副議長】 今の地域拠点としての学校という言い方は、すごくよいと思う。それも入れていった方がよいと思う。それから、この流れについて思ったが、基本は社会教育としては、前提として地区公民館はあった方がよいが、厳しい状況があるから、公共施設の多目的利用とか学校という流れにして、(4)と(3)を入れ替える。(3)がそのためにコーディネーターというのが必要だという流れの方が見えやすいのかなという気がした。学校にも学校の何とかコーディネーターとか、地域にも何とかコーディネーターとかいっばいいて、それをいろんな立場の人を結び付けるということが、実は学びというような書き方にする方がよいのかなという気がする。後、そのためには、行政内においても部局を超えてつながり、連携していくことが大事で、市民の中でもそういう多様な立場の人たちが意見交換していくこと自体が学びになっていくし、まちづくりになっていくという書き方になっていくと分かりやすいかなと思ったが、どうか。

【木村議長】 (1)、(2)は、公民館と公共施設の多目的利用、そこへ(4)にあるも

のを（３）にもってきて、最後にコーディネート機能の強化という形で入れ替える。

【中村副議長】 ただ、ちょっと気になるのは、（４）にしておいた方が、最終的に学校が大事だということに見せられる。その辺をどう見せるかだと思う。

【深野委員】 コーディネート機能のところをどこまで求めるかだと思う。ここの（３）に置いてあるということは、いわゆる地区活動におけるコーディネーターというイメージが非常に強い。それが（４）と入れ替えることによって学校も含めたという意味合いになる。そこまで広げてよいのかということである。

【益田委員】 （４）もすごく大切だが、それよりも大切なのは、コーディネーターだと思う。コーディネートすることの方が大切なような気がする。だから、どっちにしるということではないが。先ほど、私が言った仕組みを変えていくとか、そういうこともすべてコーディネートということに含まれると思うので、私は、全体を通してでもコーディネートがいちばん大切だと思う。

【木村議長】 それでは、このままでいくか。入れ替えた方がいいと思うか。

【中村副議長】 見え方が変わってくる。前文の書き方も変わってくると思う。

【生涯学習課課長】 今、３の（３）と（４）を入れ替えるという話だが、１から通じて４項目いっている中で、概ねこの４項目がそれぞれ連動しているという形をとっているので、３を入れ替えても、差し支えないのかもしれないが、ちょっとその辺が気になるのが一つと、それから、（３）が学校まで含めたコーディネーターということまでは、この案の段階では言っていないので、そこを少し直すかなというところである。

【深野委員】 多分、学校開放をしようと言ったら、ＰＴＡの協力を得ないと、どうにもならないと思う。私もＰＴＡをやったので、ＰＴＡというのは、結構強力で、例えば、桜井小で校服があったのを廃止したのも、ＰＴＡが決めた。そのようなことからすると、学びの場の形成の学校とのことを考えると、やはり学校関係で強力な力を持っている人との連携は、非常に重要だと思うので、私はそこは加えることは、何ら矛盾しないし、むしろこれからの取組の一つの要になってくる可能性があるのではないかと感じている。是非、（３）と（４）を入れ替えていただき、そういう広い意味でのコーディネート、まさしくいろいろなコーディネーターをつなげていくことがすごく大事で、今や次のステップになってしまっているが、コーディネーターを育てましょうという、ある意味どんどん進んでいる側面もあるわけなので、今度は、それを横断的に組織を超えてどうやって結び付けていくのかということである。今回の答申の大きな特徴は、そこにあるような気

がする。行政でも乗り越えろといっているわけなので、そういう意味でも、中心の核になっていくコーディネーターも、もっと横の連携を強めていくことは必要だということは大事なことだと思う。

【有賀委員】 入れ替えるとなると、この1から3まですべて（1）から（4）まで連動しているといったが、そうすると、他の章も入れ替えるということか。

【深野委員】 2の（4）の「人や活動をつなげる場」は、まさしくそういう話だと思う。

【有賀委員】 それでは、3だけ入れ替えて、コーディネートを最後にもってくるのか。

【深野委員】 矛盾しない気がする。2の（4）は、ラウンドテーブルにさまざまな個人や団体がということで共有化しましょうということが書いてある。まさしくその具体化として、コーディネーターをつなげていくとマッチしていると思う。

【中村副議長】 答申を出すときに、意思を出していくことがすごく大事なことで、結局、行政が動かないと意味が無いので、そうすると、どこまでできそうなのかなというところのちょっと上をいくぐらいでないと、あまりにもかけ離れてしまうと、多分無視されてしまうところもあるので、その辺はどうか。

【生涯学習課課長】 3の確認をさせていただく。中村副議長が言われた資金集めのところは、どうすればよいか、議論がなかったようだが。

【木村議長】 先ほど、深野委員が言った「効果的な支援のあり方を検討する必要がある」のところは、もう一段強く言うか。

【深野委員】 言ってほしい。これでは何を言いたいのか、全然分からない。

【木村議長】 何かよい文言はないか。

【深野委員】 「補助金、公民館長の育成支援等を早く強力に進めることを切に望む」とかの表現の方がよいかと思う。その方が意思が出るし、検討することからはじめましょうではなくて、取り組んでくださいと言った方がよいと思う。

【木村議長】 公民館の修繕も50万まで下がってきているので、必要があるというか、既にできる状況ではないかと思う。

【深野委員】 そうだとすると、「育成支援等の具体化を早く進めることを望む」とかの表現でもよいのかなと思う。もう検討しなくていいわけである。

【木村議長】 地域で検討してやればよいことである。何かよい文言はないか。

【深野委員】 この文章は、公民館の修繕とかそこでの活動や公民館長の育成の他に何かもっと効果的なものがあるか、それを考えましょうよという答申案なのか。

【生涯学習課課長】 それもあるが、今の補助金だとか支援のあり方をもう少し効果的にすることも考えている。ここは、検討することではなくて、「引き続き効果的な支援をしていく」ということに変えさせていただく。後、確認させていただくと、3のタイトルの「仕掛け」はこのままでいかせていただく。ここに前文を入れるということで、地区公民館が地域の中で学びの前提になって

いるということと、今後も必要があるが公共施設等が縮小もやむを得ない中で、多目的な利用や学校との連携を前文に書かせていただく。それから、(3)と(4)は入れ替えということで、よろしいか。

【木村議長】 (3)と(4)の入れ替えについては、各々みんな意見が違うだろうから、数が多い方でいこう。

【中村副議長】 行政としてどこまでできるかである。

【笹井委員】 答申という形だが、提言とか建議とか報告とかいろいろなスタイルがあるが、答申というといちばん拘束力が強いというか、諮問について答えるわけなので、そうすると、中村副議長が言われていたように、行政としてどこまでそれができるのかを考えなければいけないのかなと思う。実は、コーディネーター育成は、結構大変な仕事で、是非それができればよいと思うが、あまり拘束力の強い言い方をするのもどうかと実は思っている。個人的には、このままでよいと思っている。

【浜田委員】 やはり、どこまでできるかということと、学校の部分を元々は最後にもってきていて、最後の方が重要だということだが、今の話もそうだが、どこまでやれるのかということによって、入れ替えするかどうかは悩む。今の時点ではどっちがよいのかははっきりしない。コーディネートの部分もここまでやりますとか、学校のことも意見が出ていたが、ちょっと踏み込んでそこまでやるというのであれば、それによってもっていく場所が違うかなという感じがする。

(浜田委員、退席)

【中村副議長】 最初に確認したとき、すごく悩んだが、多分この順番かなと思う。学校が先。学校が最後だったら、できそうなのか。学校を開くということに少しは、言っていけるのか。

【文化部長】 方向は、そのとおりに進めたいと市も教育委員会も思っている。スケジュールはまだないが、少なくとも10年先20年先ということではなく、できるところからそういうふうにしていきたいということは間違いない。

【中村副議長】 そうしたら、そうしてコーディネートのところをもう少し言葉を変えて、本当はこれがすごく大事だということを見えるようにすればよいと思う。

【深野委員】 3のどこかに学校内におけるコーディネーターとの連携も模索していくというようなことを入れてもらえれば、私もこの順番で構わない。非常に難しいハードルであるということは分かったので、そういうところで、妥協するしかないのかなと思う。

【中村副議長】 資金のところは、決まったのか。削れと言ったわけではなく、書き方によ

っては法律違反になると言った。この中でも、いろいろ集めたいという意見も確かにあった。

【木村議長】 うちでは集めている。市内の業者がもってくる回覧、あれは業者が、広告をもらって、作成して無料で配っている。今、地域コミュニティ組織を立ち上げて、行政からもらう補助金は使い道が決まっている中でこういうことをやりたいというと、そちらには流用することができない。それではしょうがないので、自分達で自己資金を作ろうということで、回覧板の業者に、一応断った。今後はうちの地域は結構です。自分達で地域を歩いて、9.8割くらい集まっているが、そうすると、だいたい広告料が100万くらい集まる。作成費用が約1500部で約55万くらいの金額である。約40万の収益が得られる。我々は、集めたお金が税金でもっていかれるのがいやなので、いろいろ調べてもらったら、それもないということだったので、そういう形でやっている。いろいろな形で、地域では運動するには資金がないとできないので、集めることは、現在でもやっているの、別に残してもよいのではと思う。資金集めは、みんなやっている。

【生涯学習課課長】 明らかな営利行為でなければよいのかなということで、書かせていただいた。バザーとかそうしたものについては、よいのかなということである。この資金集めというのは、直接的な言い方なので、もう少し表現を変えるというのはあるかもしれない。

【笹井委員】 例えば、これは自治公民館の例だが、長野県の松本市は町内会が作っている公民館が350ある。公民館が中心になって地域にある一人暮らしの高齢者のお弁当作りをしている。やはりそのための資金を集め、家に閉じこもりがちな高齢者のための弁当を作って配布している。300円くらいで売っている。そういうことをやっているし、あるいは、私も実際見に行ったこともあるが、こづかいがほしいという人のために、地区公民館に高齢者が集まって、携帯のストラップとかを作って、売ったりもしている。利潤追求はまずいと思うが、公共のために使う、地域の福祉のためとか、公的な意味があるところに使うのは、構わないと思う。地域活動のためのという言葉がとても大事で、そういうものを残して、トーンダウンして、資金集めはきついので、そういう言葉であればよいのかなと思う。

【生涯学習課課長】 その辺は、事務局の方で工夫させていただく。

【中村副議長】 私は残してよいと思う。ただ、この書き方がということを言いたい。

【木村議長】 後は、(2)の「やむを得ない」を変えて「考えられる」でよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

【木村議長】 3の「行政内の各部局は」のところはこれでよいか。

(「異議なし」の声あり)

- 【木村議長】 「おわりに」のところで、中村副議長が言われた「折りしも」から「地域と行政が一体となって取り組んでいくことが必要であろう」のところを全部上へもっていくということによいのか。
- 【中村副議長】 全部もって行ってよいと思う。
- 【木村議長】 そうすると「おわりに」が少なくなるのか。
- 【中村副議長】 「おわりに」は、もう少し厚くした方がよいと思う。先ほど「地域への愛着」とかが出ていたと思うし、3を要約して書くと結論になると思う。3の（1）、（2）、（3）、（4）がいちばん言いたいことだと思うが、それが結論に何も入っていない。これをやるのが、ないからちょうだいではなくて、まちづくりになるとか、小田原らしさをいかすことになるみたいな形になるとよいと思う。そうでないと、どこの地域で出ても同じ答申かなという感じになってしまうので、小田原らしいものが見える方がよいので、最初の「はじめに」のところの踏まえてのところに前の答申を入れた方がよいと思うし、最後の「おわりに」のところも小田原の答申なんだなというのが見える形にすることが大事だと思う。
- 【木村議長】 先ほど、文化部長から話があったように、学校との開放の問題も10年先の問題でもないということなので、それを考えると、地域と学校との連携のために行政においても各部局においてもやっもらえているのだから、「おわりに」のところに、先ほど、中村副議長が言われた「折りしも」というところから最後のところは、「地域住民にとって身近で愛着がある学校が、地域の学びの場の中心となるよう、地域と行政とが一体となって取り組んでいくことが必要であろう」ではなくて「ある」という言葉でどうか。「あろう」というと、また流されるといけないので、「必要である」とするのはどうか。
- 【生涯学習課課長】 それを3の（4）のところにに入れて、そういう表現にするということか。
- 【木村議長】 それでなくても、上は上でいいかもしれないがどうか。
- 【中村副議長】 上にもっていく部分と、国の答申のことは上にもっていけばよいが、今言ったところは下でもよいと思う。後、小田原らしさというと「キャンパスおだわら」が小田原の特徴かなという気がするので、そういう言葉も最後に書いた方がよいと思う。
- 【木村議長】 「キャンパスおだわら」は、「おだわらTRYプラン」で掲げられている「希望と活力あふれる小田原」の一途となり」のところに入れるか。
- 【中村副議長】 よいのではないか。「だれもが、いつでも、どこでも、なんでも」学ぶことができるといっているので、そのための場所が必要になってくるので、よいのではないか。

- 【木村議長】 後は、どうか。
- 【土田委員】 事務局にお願いがある。地区公民館を誰が持っているのか。豊川の場合、地区公民館が4つあるが、そのうち3つは神社仏閣の土地に建っており、あと1箇所は個人の土地に建っている。そういうものがグラフか何かで出していただければと思っている。
- 【生涯学習課課長】 昨年度、この会議でその資料は提出させていただいているので、必要であれば、改めて提出させていただく。
- 【木村議長】 「おわりに」の「折りしも」のところを上に入れて、そこにまた同じような、変わったものでもよいので、下にも両方入れてほしい。後は、よろしいか。今回出された皆さんの意見を事務局でちょっと文言の修正等をしていただいて、私に一任させていただいてよろしいか。
- （「異議なし」の声あり）
- 【木村議長】 出来上がったら、事務局の方から皆さんの方に答申という形で送るので、よろしく願います。それでは、私の方からは以上だが、事務局から連絡はあるか。
- （有賀委員から資料に基づき、「放課後こども教室」について話があった。）
- 【中村副議長】 個人的なこととして、委員を2期やらせていただき、ありがとうございました。今回でやめたいと思っているので、次の方には是非お願いしたいことがある。今回、答申が出るのが大幅に遅れた。そうすると、行政の方も異動されたりとかで引継ぎが全然できなくなっていくのは、すごく問題だなという気がした。やはり、期日は守れるようにしていただき、期毎に終われるようにしていただいた方が行政の方もやりやすくなるだろうし、私たちの方もやりやすくなるので、守っていただきたいと思う。
- 【木村議長】 事務局の方から連絡事項はあるか。
- 【生涯学習課課長】 繰り返しになるが、この答申については、7月21日に開催される教育委員会定例会で報告させていただく。その際は、木村議長に出席していただく予定である。
- 【木村議長】 それでは、これで社会教育委員会議事を終わりにしたいと思います。長時間、ありがとうございました。